

実務経験のある教員による授業科目一覧（医療栄養学科）

対象 学科	科目名	担当教員	担当教員の主な 実務経験	授業内容
医療 栄養 学科	専門職連携総合 演習 I	尾形 聡	医師として病院勤務 (1993年～2011年)	多学科の学生との専門的な用語を用 いてのコミュニケーションを実践す る。参加する学生は、学内の各学科 実習室等を訪問し、説明や実習など の体験を通して各職種の役割を理解 し、自分の志望する職種（管理栄養 士）との連携のあり方について考え る科目である。 <u>それぞれの専門職が健康・医療・福 祉現場での勤務経験を活かし、より 実践的な指導を行っている。</u>
	専門職連携総合 演習 II	尾形 聡	医師として病院勤務 (1993年～2011年)	<総合演習 II>多学科の学生からな るグループをひとつのチームとし、 提示された事例について、その利用 者やその家族の生活をも考慮し、そ の問題点を解決するためのケアプラ ンについて考える科目である。 <u>それぞれの専門職が健康・医療・福 祉現場での勤務経験を活かし、より 実践的な指導を行っている。</u>
	公衆栄養学 I	辻本 洋子	保健所・保健センタ ー (1984～2013) 子ども青少年局 (2006～2009) 健康福祉局 (2009～2010)	公衆栄養学の基本的な概念と公衆栄養活 動、管理栄養士・栄養士制度の概要とその 歴史、わが国の健康・栄養問題の現状と課 題及び施策について、保健所・保健センタ ー等での管理栄養士としての経験を活か し、より実践的な授業を展開している。
	公衆栄養マネジ メント	辻本 洋子	保健所・保健センタ ー (1984～2013) 子ども青少年局 (2006～2009) 健康福祉局 (2009～2010)	公衆栄養マネジメントの過程と方法、公衆 栄養アセスメント、栄養疫学、公衆栄養プ ログラム等について、保健所・保健センタ ー等での管理栄養士としての経験を活か し、より実践的な授業を展開している。

実務経験のある教員による授業科目一覧（医療栄養学科）

医療栄養学科	公衆衛生学Ⅰ	辻本 洋子	保健所・保健センター（1984～2013） 子ども青少年局（2006～2009） 健康福祉局（2009～2010）	健康や公衆衛生の概念、疫学手法、身近な生活環境について、社会や環境が人間の生活にどのように関係しているかを、保健所・保健センター等での管理栄養士としての経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	公衆衛生学Ⅱ	辻本 洋子	保健所・保健センター（1984～2013） 子ども青少年局（2006～2009） 健康福祉局（2009～2010）	生活習慣病の現状と対策、保健・医療・福祉・介護制度、ライフステージにおける種々の保健対策について、保健所・保健センター等での管理栄養士としての経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	公衆衛生学Ⅲ	辻本 洋子	保健所・保健センター（1984～2013） 子ども青少年局（2006～2009） 健康福祉局（2009～2010）	地域保健、母子・高齢者・学校・産業保健、国際保健分野の保健制度および対策について、保健所・保健センター等での管理栄養士としての経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	食事調査実習	辻本 洋子	保健所・保健センター（1984～2013） 子ども青少年局（2006～2009） 健康福祉局（2009～2010）	栄養学研究における食事アセスメントに活用できるよう、食事調査の手法を獲得し展開できるよう、保健所・保健センター等での管理栄養士としての経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	公衆栄養学実習	辻本 洋子	保健所・保健センター（1984～2013） 子ども青少年局（2006～2009） 健康福祉局（2009～2010）	社会・地域の健康・栄養問題の背景やそれらの情報収集・アセスメントを通して、公衆栄養プログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントについて、保健所・保健センター等での管理栄養士としての経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	臨地実習Ⅳ（公衆栄養学）	辻本 洋子	保健所・保健センター（1984～2013） 子ども青少年局（2006～2009） 健康福祉局（2009～2010）	現場での実習を通して地域や職域等における栄養関連の公衆栄養プログラムを作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう、保健所・保健センター等での管理栄養士としての経験を活かし、より実践的な授業を展開している。

実務経験のある教員による授業科目一覧（医療栄養学科）

医療栄養学科	卒業研究 I, II	手納 直規	外資系製薬会社の研究員（主席研究員） (1992-2008)	これまで学んできた理論および専門知識を生かし、研究論文を作成します。現在、あるテーマを薬学的アプローチ（構造活性相関）と栄養学的アプローチ（混餌投与により遺伝子の増減）を進めており、様々な文献やデータを用いて、解析や考察を行い専門的な知識を一層深める。製薬会社の研究員の経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	栄養薬学	手納 直規	外資系製薬会社の研究員（主席研究員） (1992-2008)	薬剤の作用機序に軸足を置き、食材の栄養素が如何に薬剤のADMEに影響を与えるか、また生活習慣病に対する薬剤の今昔を製薬会社の研究員の経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	生化学 I, II	手納 直規	外資系製薬会社の研究員（主席研究員） (1992-2008)	2年次、3年次開講の基礎栄養や臨床栄養を念頭におき、多角的な面から薬物の作用機序の根幹をなす生物化学を製薬会社の研究員の経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	食品加工学	坂本 宏司	公的研究機関において食品加工に関わる研究・指導業務に従事 (1980～2014)	食品加工学では、食生活の欠かせない食品について、食品の生産から加工・流通・貯蔵における基礎知識を学び、食品のロス低減や食品素材の有効利用、安心・安全な食品の加工技術、そして加工食品の持つ機能性成分に関する能力を習得する。さらに、食品の表示や食品の規格、基準などを理解して加工食品の正しい情報を習得する。公的研究機関での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。

実務経験のある教員による授業科目一覧（医療栄養学科）

医療栄養学科	食品化学Ⅰ	坂本 宏司	公的研究機関において食品加工に関わる研究・指導業務に従事 (1980～2014)	ヒトは生命の維持および将来の生命活動のために、食べ物から栄養素を取り込んでいる。現在、食品の種類や量は豊富であり、生命の維持、健康増進及び疾病を改善するためには、ヒトと食べ物およびその栄養に関する正しい知識を持つことが大切である。本講義では、ヒトと食べ物の関わり、食べ物の構成成分・栄養価、物性や機能性、食品中の嗜好・有害成分、調理・加工・保存による様々な変化等について総論的に理解させる。 <u>公的研究機関での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	食品化学Ⅱ	坂本 宏司	公的研究機関において食品加工に関わる研究・指導業務に従事 (1980～2014)	植物性食品、動物性食品、各種食品などについて、その生産、消費、種類、成分、栄養的・生理的特徴、調理・加工特性、機能性などを解説する。 <u>公的研究機関での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	食品化学実験	坂本 宏司	公的研究機関において食品加工に関わる研究・指導業務に従事 (1980～2014)	実験を安全で効率よく行うために必要な基礎的知識と技術を修得し、食品成分の含有量や特性について理解する。分析方法の理論、化学反応の原理を実験、グループワークを通じて、修得する。 <u>公的研究機関での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	教育方法論	岡田 大爾	高校勤務 (1985～1986) 中学校勤務 (1986～2005)	教員の日々の児童・生徒に対する「指導」や「支援」の活動について、概説的なものから具体的なものまで幅広く学んでいく。このとき、 <u>教師に求められる実践的指導力を身につけることを常に意識すると共に、学校現場における児童・生徒の多様性・多様化という現状に鑑みて、授業のいわゆる「ユニバーサルデザイン」化に向けた知識・技能の習得及び習得した知識・技能の活用・探求に迫る。</u>

実務経験のある教員による授業科目一覧（医療栄養学科）

医療栄養学科	教育課程論	岡田 大爾	高校勤務 (1985~1986) 中学校勤務 (1986~2005)	学校教育の基本的な考え方から始め、学校教育の役割を教育法規、学習指導要領、学校の教育方針等をふまえた教育課程について理解し、その編成の方法について実践的に検討する。その中で、「地域との連携」、「総合的な学習の時間」、「教科」、「教科外活動」など学校の特色を生かすカリキュラムについても実践的に取り扱う。
	特別活動論	岡田 大爾	高校勤務 (1985~1986) 中学校勤務 (1986~2005)	特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。
	生徒指導論	岡田 大爾	高校勤務 (1985~1986) 中学校勤務 (1986~2005)	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

実務経験のある教員による授業科目一覧（医療栄養学科）

医療栄養学科	栄養教育実習Ⅰ	岡田 大爾	高校勤務 (1985~1986) 中学校勤務 (1986~2005)	<u>学校教育と教育実習について理解を深め、教育実践に必要な基礎的能力を養成するとともに、教育者になるための自覚を高めることにより、教育実習において実習生としてのふさわしい態度や行動を示し、有意義な経験を積むことができるような準備をさせる。</u> 教育の現場において教員としての体験を行い、責任ある教育活動を営みうる実践力を身につけさせる。
	栄養教育実習Ⅱ	岡田 大爾	高校勤務 (1985~1986) 中学校勤務 (1986~2005)	栄養教諭の免許状取得を希望する学生が、教育の現場において教師としての体験を行い、責任ある教育活動を営みうる実践力を身につける。 <u>事前指導においては、心構えの確認、学習指導案の作成、模擬授業など、実践に備えた準備を充分に行う。</u> 学校では、授業参観、授業担当、教材研究、特別活動等、学校教育への参加を行う。 <u>事後指導においては、教育実習の成果と反省点についての発表を行った上で、集団討議を行う。</u>
	教職実践演習 (栄養教諭)	岡田 大爾	高校勤務 (1985~1986) 中学校勤務 (1986~2005)	<u>これまで授業や実習等で学び、さらに様々な活動を通じて修得した資質能力を、必要に応じて補完しすることにより、栄養教諭 および管理栄養士に必要な知識・技術の充実を図り、栄養教諭として必要な実践力を身につけることを目的とする。</u>

実務経験のある教員による授業科目一覧（医療栄養学科）

医療栄養学科	教育学	岡田 大爾	高校勤務 (1985~1986) 中学校勤務 (1986~2005)	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ゆとり教育論や学力論、評価等について多くの誤解がある中で、諸外国の例も含めてわかりやすく解説する。</u> ・ <u>自分自身の「教育」経験の範囲を超えて、現代の「教育」が抱え込んでいる様々な問題の解決方法を考える。</u> ・ <u>教育現場及び家庭や社会における諸課題に対応するため、将来の子育てにも役立つように実践的に考察する。</u>
	教職概論	寺重 隆視	高等学校教諭として勤務 (1987~1990)	<p>教育の目的や動向、わが国における学校教育の社会的意義、今日の<u>教員に求められる役割と職務内容、求められる資質・能力、課せられる服務上・身分上の義務、研修の重要性、組織的な課題解決等について学び、教職員としての在り方を自己の進路と重ね合わせて考える。</u></p>
	栄養教育実習Ⅰ	寺重 隆視	高等学校教諭として勤務 (1987~1990)	<p><u>学校教育と教育実習について理解を深め、教育実践に必要な基礎的能力を養成するとともに、教育者になるための自覚を高めることにより、教育実習において実習生としてのふさわしい態度や行動を示し、有意義な経験を積むことができるような準備をさせる。</u>教育の現場において教員としての体験を行い、<u>責任ある教育活動を営みうる実践力を身につけさせる。</u></p>
	栄養教育実習Ⅱ	寺重 隆視	高等学校教諭として勤務 (1987~1990)	<p>栄養教諭の免許状取得を希望する学生が、教育の現場において教師としての体験を行い、<u>責任ある教育活動を営みうる実践力を身につける。</u>事前指導においては、<u>心構えの確認、学習指導案の作成、模擬授業など、実践に備えた準備を充分に行う。</u>学校では、授業参観、授業担当、教材研究、特別活動等、学校教育への参加を行う。事後指導においては、教育実習の成果と反省点についての発表を行った上で、集団討議を行う</p>

実務経験のある教員による授業科目一覧（医療栄養学科）

医療栄養学科	教職実践演習（栄養教諭）	寺重 隆視	高等学校教諭として勤務 (1987~1990)	これまで授業や実習等で学び、さらに様々な活動を通じて修得した資質能力を、必要に応じて補完することにより、栄養教諭および管理栄養士に必要な知識・技術の充実を図り、栄養教諭として必要な実践力を身につけることを目的とする
	臨床栄養学概論	岡山 和代	管理栄養士として病院に勤務 (1995-2001) 身体障害者の福祉施設に勤務 (2002-2004)	傷病者等の病態や栄養状態の特徴に基づいた適切な栄養管理を実施するための基本的な知識及び技術を学修する。 <u>病院や福祉施設での勤務経験を活かした、実践的な授業を展開している。</u>
	栄養ケアマネジメント各論 I	岡山 和代	管理栄養士として病院に勤務 (1995-2001) 身体障害者の福祉施設に勤務 (2002-2004)	各疾患・病態時の体内代謝・生理学的・病理学的所見に基づく栄養管理を理解し、主に食事療法、食品と医薬品に関する相互作用について学修する。 <u>病院や福祉施設での勤務経験を活かし、授業で学修した管理栄養士の知識や他職種との連携で対応した栄養ケアなどを、実務の場での活用例をあげて説明している。</u>
	栄養ケア技術実習	岡山 和代	管理栄養士として病院に勤務 (1995-2001) 身体障害者の福祉施設に勤務 (2002-2004)	傷病者や低栄養状態の対象に対する、栄養アセスメント、栄養計画、栄養ケアの各種手法を学修する。対象の栄養管理の書類（カルテなど）を作成する。 <u>病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	総合専門演習 I	岡山 和代	管理栄養士として病院に勤務 (1995-2001) 身体障害者の福祉施設に勤務 (2002-2004)	隣地実習の事前事後授業である。管理栄養士の知識・技能及び態度について復習し、臨地実習終了後の報告会では、隣地実習での自己課題をまとめて、実践での学びをより深める。 <u>病院で勤めた経験から、実際の管理栄養士の業務について、学生に事前指導をしている。</u>

実務経験のある教員による授業科目一覧（医療栄養学科）

医療栄養学科	総合専門演習Ⅱ	岡山 和代	管理栄養士として 病院に勤務 (1995-2001) 身体障害者の福祉施設に勤務 (2002-2004)	管理栄養士課程における専門基礎科目及び専門科目を復習し、管理栄養士として必要とされる知識をより深める。 <u>病院・福祉での勤務経験を活かし、教科書から得た知識を実践に活用させる授業を展開している。</u>
	臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	岡山 和代	管理栄養士として 病院に勤務 (1995-2001) 身体障害者の福祉施設に勤務 (2002-2004)	病院での実践授業であり管理栄養士の業務を通して、栄養アセスメントに基づいた栄養ケアプランの作成、実施、評価等総合的な栄養マネジメントを学修する。 <u>病院や福祉施設で経験した実践的な管理栄養士の知識の活用および他職種と連携した栄養管理を授業に反映させている。</u>
	臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	岡山 和代	管理栄養士として 病院に勤務 (1995-2001) 身体障害者の福祉施設に勤務 (2002-2004)	チーム医療など他職種と連携した栄養マネジメントを学修する。自己課題に取り組み実践的な管理栄養士の知識を深める。 <u>病院での経験した実践的な管理栄養士の知識の活用および他職種と連携した栄養管理を授業に反映させている。</u>
	専門職連携総合演習Ⅰ	岡山 和代	管理栄養士として 病院に勤務 (1995-2001) 身体障害者の福祉施設に勤務 (2002-2004)	具体的な体験を通じて医療分野の各職種の役割の理解を深める。また、グループワークを通じて、コミュニケーションやプレゼンテーション能力を学修する。 <u>病院や福祉施設での勤務経験から、実践的な管理栄養士の立場で学生に助言ができる。</u>
	専門職連携総合演習Ⅱ	岡山 和代	管理栄養士として 病院に勤務 (1995-2001) 身体障害者の福祉施設に勤務 (2002-2004)	チーム医療が必要である傷病者・障がい者などを対象に対して、多学科で構成されたグループで、対象の問題点を共有し、各自の専門的な治療(ケア)および、専門職間での協働などを話しあい。対象の具体的なサポートプランをグループで提案する。 <u>病院や福祉施設での勤務経験から、実践的な管理栄養士の立場で学生に助言ができる。</u>

実務経験のある教員による授業科目一覧（医療栄養学科）

医療栄養学科	食育演習Ⅰ	岡山 和代	管理栄養士として 病院に勤務 (1995-2001) 身体障害者の福祉施設に勤務 (2002-2004)	地域社会との連携活動の実際授業である。献立作成や調理など管理栄養士の基本的技術を学習する。一般人(対象)が簡単に作れる食事のメニューを考案、試作し、これを料理カードや広報誌に掲載する。 <u>病院や福祉施設での勤務経験を活かした、実践的な授業を展開している。</u>
	食育演習Ⅱ	岡山 和代	管理栄養士として 病院に勤務 (1995-2001) 身体障害者の福祉施設に勤務 (2002-2004)	地域社会との連携活動の実際授業である「保育園児を対象とした絵本の読み聞かせ」「地域住民を対象とした、地域の特産食品の地産地消活動」のいずれかを学生は選択する。活動計画から対象に発表するまでの過程を学習する。 <u>病院や福祉施設での勤務経験を活かした、実践的な授業を展開している。</u>
	臨床栄養学総論	岡山 和代	管理栄養士として 病院に勤務 (1995-2001) 身体障害者の施設に勤務(2002-2004)	傷病者等の病態や栄養状態の特徴に基づいた適切な栄養管理を実施するための基本的な知識及び技術を学修する。 <u>病院や福祉施設での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	臨床栄養学各論Ⅰ	岡山 和代	管理栄養士として 病院に勤務 (1995-2001) 身体障害者の施設に勤務(2002-2004)	各疾患・病態時の体内代謝・生理学的・病理学的所見に基づいた栄養管理において、主に食事療法、食品と医薬品に関する相互作用について学修する。 <u>病院での勤務経験での、実践的な管理栄養士の知識の活用および他職種と連携した栄養管理を授業に反映させている。</u>
	給食経営管理総論	木村 留美	管理栄養士として給食会社（病院配属）勤務 (2000～2001)	給食の運営方法、栄養管理、生産管理、食材管理、衛生管理、品質管理、経営管理、マネジメント論等の基礎的理解ができることを目的とする。 <u>病院での給食の運営経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	給食経営管理各論	木村 留美	管理栄養士として給食会社（病院配属）勤務 (2000～2001)	各種の特定給食施設における給食経営管理について、給食の意義および特性を理解し、基礎的な給食経営管理が理解できることを目的とする。 <u>病院での給食の運営経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>

実務経験のある教員による授業科目一覧（医療栄養学科）

医療栄養学科	給食経営管理実習 I	木村 留美	管理栄養士として給食会社（病院配属）勤務 (2000～2001)	特定給食施設において、特定多数人に対するの食事提供を通して、適切な栄養管理をするために、対象者及び対象集団の栄養アセスメント結果に応じた品質の食事計画と提供のための知識と技術を修得することを目的とする。 <u>病院での給食の運営経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	栄養教育論 I II III	坪内 美穂子	児童養護施設勤務 (1976～1978) 小学校栄養職員勤務 (1997～2004) 病院勤務（栄養指導） (2005～2018)	QOL の向上を目指した栄養教育を行うため行動科学の理論・モデルとその技法の基礎を学ぶ。さらに臨床、ライフステージ別、及び個人、集団に適応できる知識、技法を学んでいく。 <u>福祉、教育、病院それぞれの勤務経験を活かし具体例を示すことで状況の把握をさせる授業を展開している。</u>
	栄養カウンセリング論	坪内 美穂子	小学校栄養職員勤務 (1997～2004) 病院勤務（栄養指導） (2005～2018)	QOLの向上を目指した栄養教育を行うため行動科学の理論・モデルに基き、臨床、ライフステージ別、及び個人、集団に適応したカウンセリングの技法を学んでいく。 <u>教育、病院勤務経験を活かし、カウンセリングマインド、コミュニケーション能力が育つよう展開している。</u>
	栄養教育プログラム論実習	坪内 美穂子	小学校栄養職員勤務 (1997～2004) 病院勤務（栄養指導） (2005～2018)	QOL の向上を目指した栄養教育を行うため行動科学の理論・モデルに基き、臨床、ライフステージ別、及び個人、集団に適応したプログラムの作成をPDCAサイクルを用い実習する。教育、病院勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	栄養教育実習 I	坪内 美穂子	小学校栄養職員勤務 (1997～2004)	栄養教諭の免許状取得を目指す学生が、教育の現場において教師としての体験を行い、責任ある教育活動を営みうる実践力を身につける。 <u>主に学習指導案作成、模擬授業など、教育勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>

実務経験のある教員による授業科目一覧（医療栄養学科）

医療栄養学科	教職実践演習 (栄養教諭)	坪内 美穂子	小学校栄養職員勤務 (1997～2004)	栄養教諭の免許状取得を目指す学生が、これまでの授業、実習で学んだこと、さらに修得した資質能力を、必要に応じて保管することにより栄養教諭および管理栄養士に必要な知識・技術の充実を図り、栄養教諭として必要な実践力を身に付ける。 <u>教材研究、教材作成など、教育勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	在宅栄養管理・食の力開発論	坪内 美穂子	病院勤務 (栄養指導) (2005～2018)	在宅療養者の栄養ケアを、多職種、同居家族と連携し、かつ在宅療養者の疾患、病状、栄養状態に適した栄養食事指導ができるように、療養者の食生活を中心に様々な課題に対応できる知識、技術について学ぶ。 <u>病院勤務で行ってきた栄養指導現場の経験を活かし、個人の食生活の状況を判断する能力とそれに対応できる能力が育つよう展開していく。</u>
	栄養教育論実習	坪内 美穂子	児童養護施設勤務 (1976～1978) 小学校栄養職員勤務 (1997～2004) 病院勤務 (栄養指導) (2005～2018)	健康・栄養教育の基礎的知識を実践的に展開、応用できるよう実習していく。行動変容に結びつけていく、プログラムの作成、マネジメント能力が育つよう、福祉、教育、病院勤務経験を活かしより実践的な授業を展開していく。